

まちだの木と里山活用フォーラム

～「まちだの木」活用プロジェクトとTamagawa Mokurin Projectのこれから～

町田市と学校法人玉川学園は2025年度に締結した協定に基づき、市内の樹木の活用と循環という共通使命を持つパートナーとして、市内の木と森を軸とした持続可能な社会の形成や、環境・地域社会の発展への貢献を目指し、共に取り組んでいます。本フォーラムの第1部では、広葉樹活用や森林業界の全国的な取り組み状況を知っていただく講演会、「『まちだの木』活用プロジェクト」と「Tamagawa Mokurin Project」の紹介、産学官連携による持続可能なみどりの広葉樹活用・森林業界の全国的な取り組み状況活用の可能性についてゲストによるクロストークを行いました。



広葉樹活用・森林業界の全国的な取り組み状況の紹介

●自分事として森に関わる

- ・森を体験できる場所が都会に少なく、木材活用の川上から川下まで繋ぐ場所としてBARをつくった。小さなチェーンソー製材でもみんなで汗をかきながら何かを作ったり、自ら体験することが大事。
- ・森との接点を持つ里山地域でも素材の活用だけでなく体験がやはり大事で、「トータル林業まちづくり構想」の視点が必要。



(株)古川ちいきの総合研究所
代表取締役
古川 大輔氏

●「どう使うか」の前に「どうありたいか」

- ・クレジットビジネス等を通して森林資源の価値化が進んでいる。森林環境譲与税の使い道も注目される中、お金の使い道の前に「将来こういう風な森づくりをしたい」というビジョンの必要性を感じている。
- ・森林は100年もの。100億円あっても明日、100年の森はできない。次世代に受け継ぐ町田の森林・里山の未来のデザインを考えなくてはならない。



ちいきのBAR 峠

出典:(株)古川ちいきの総合研究所 HP



リベラルアーツ学部
北海道森町で取り組み



小学部 剥皮間伐

出典:
Tamagawa
Mokurin
Project HP

玉川大学リベラルアーツ学部・玉川学園小学部とTamagawa Mokurin Projectの取り組み紹介

●リベラルアーツ（教養）と学びの循環

- ・教養を得るだけでなく学んだことを、交流を通じて社会・地域で試行していく循環を実現する理念は玉川学園の「Tamagawa Mokurin Project」の理念にもマッチ。

●リベラルアーツの多角的な視点×木

- ・木を守る、伐る、使うのは色々な視点がないと判断できず良い取り組みには繋がらない。問題解決のための多角的な視点が必要だという事が授業を通じて学べた。
- 「まちだの木」活用プロジェクトとの連携授業も実施予定。今後も取組に関して学生へアドバイスがもらえたら嬉しい。

●木の活用を通じた子どもの学び

- ・小学部の授業にも「Tamagawa Mokurin Project」の取り組みを導入。授業を通じて子どもたちが森の保護だけでなく活かすことにも挑戦でき、森を育てることが次の循環に繋がることを学べた。
- ・授業を通じ、子ども達にとって森の存在が身近になった。



玉川大学リベラルアーツ学部
学部長
永井 悦子 教授



玉川学園小学部
1年学年主任
廻谷 美和 教諭

まちだの木と里山活用フォーラム 第1部(講演パート)

事例紹介とクロストーク

古川氏による進行のもと、玉川学園・品事業者・町田市がそれぞれの取り組みを紹介するとともに、木材活用の可能性などについてクロストークを行いました。

登壇者



【ファシリテーター】
(株) 古川ちいきの総合研究所
代表取締役
古川 大輔 氏



玉川大学
リベラルアーツ学部
学部長
永井 悦子 教授



学校法人玉川学園
総務部管財課
細谷 清 課長
(一級建築士)



くうちん工房
大川 小枝子 氏
(市内木工工房経営)



町田市農業振興課
担当課長
牛腸 哲史

まちだの木と里山活用フォーラム 第1部(クロストーク)



事例紹介 (Tamagawa Mokurin Project ／「まちだの木」活用プロジェクト)



Tamagawa Mokurin Project
玉川学園の理念からプロジェクトの取り組み状況について紹介しました。

「まちだの木」活用プロジェクト

里山及びプロジェクトの取り組みや「まちだの木」を使った木工品制作等について紹介しました。



クロストーク (敬称略)

●視点の広がり意識の変化：取り組みを通じて見えてきたことは？

- ・永井：日常では接点のない人々と出会うことがリベラルアーツの授業の特権。学生も誰かと話してみたい・自分で動いてみたいという人が多い。Tamagawa MokurinProjectを通じて、学生たちは課題意識だけでなく交流を楽しみながら、多様な視点から物事を捉えられるようになってきている。
- ・大川：ワークショップに参加するのは子どもが多いが、「まちだの木」では大人の方が多く参加された。ワークショップって子供だけのものじゃないんだと感じた。自分が「まちだの木」に関わることで、地域の人に関わっていくきっかけになるかもしれない。
- ・細谷：木を伐ることは心理的に「悪いこと」と思われやすいが、Tamagawa MokurinProjectをはじめとした取り組みの積み重ねが緑の循環や次世代へ残していく事に繋がると良いと考えている。
- ・牛腸：「竹の活用」だけでも人によって興味や関わり方が違うことが分かってきた。公共空間にも沢山の木があるが伐っていかないと循環には繋がらない。活用を通じて丁寧に必要性を理解していってもらうことが重要だと考えている。

●多様な立場からまちだの木を育む：それぞれの立場から考えるまちだの木・里山との関わり方は？

- ・細谷：木は色々な接し方があるがみんなそれぞれに思い入れがあって好きなイメージ。Tamagawa MokurinProjectを継続して地域・社会が良くなれば。
- ・永井：リベラルアーツ学部は自然を専門に学ぶ学部ではないが、専門家じゃないと山や木を語れないというわけではなく、色々な立場から山・まちに関われると良いと考えている。
- ・大川：町田産の木を資材として入手できるようになったら嬉しい。
- ・牛腸：仕事としてだけでなく「何が楽しいか」という気持ちを大切にしたいと思っている。それが里山の木の循環に繋がると思うので、面白そうと思った取り組みにはぜひ参加してほしい。

質疑応答 (敬称略)

Q. 街路樹に対して地域の皆さんに興味を持ってもらい、市民参画を促していきたいのですが、どのようなアイデアがあるでしょうか？

A. 情報発信に関して、学生は私たちよりも長けています。「若い人が何か関わることがあるかな」「情報発信について、大学生ならこういうことができるんじゃないか」みたいことがあればご一報いただけるとありがたいです。(永井)

Q. ①玉川学園が様々な取組をされていて驚きました。学園内で製材場をお持ちなのでしょうか？
②町田の木や里山を活用していくにあたって鶴見川の流域をどの程度意識されているか、教えてください。

A. ①製材に関しては学内では難しく、外注しています。木の大きさや樹種によって「やれる・やれない」があります。今後、地域の製材事業者とも連携していきたいと考えています。(細谷)

A. ②鶴見川の源流について、長年NPO法人が中心となって取り組まれており、団体との連携が重要になると考えています。流域に限らず、ある程度エリアごとに連携していく必要があると思っています。東京都では区部と西多摩地域の相互連携を推進しており、町田市も区部から人を呼ぶ体験事業を実施しています。こうした取り組みは流域においてもできるとよいと考えています。(牛腸)

Q. Tamagawa Mokurin Projectは学園内の里山を中心に活動されていると説明がありましたが、市内の里山に活動を広げたり、協業していくお考えがあったりしますでしょうか？

A. リベラルアーツ学部と町田市の連携は、町田の里山の活用・課題解決にどのようなことができるかという視点でモデル的な取組として進めています。今後、こうした取組が市内の他地域に活かせることがあれば、支援したいと思っています。(細谷)

午後の第2部では、小野路の里山を巡るガイドツアーを実施しました。

野津田公園を出発し、竹林や新緑が芽吹き始めた山林、農地の広がる風景を散策しました。

「まちだの里山」を実際に見ていただくことで、第1部で触れられた里山の木や竹が抱える課題についてより深く知っていただくことができました。



「まちだの里山」ガイドツアーで
里山を先取り🌸



遠くにランドマークタワーが！

この植物は何だろう？

広葉樹・針葉樹が入り混じる森林

里山に広がる農地の風景

今後も色々取り組みます！
「まちだの木」活用プロジェクトの詳細はこちら！▶

フォーラム参加者の声(抜粋)

テーマを深掘りしたクロストークも聞いてみたい

季節にあわせてガイドウォークを行ってほしい

知らないことが知れてよかった

意見交換をもっと聞いてみたかった

リベラルアーツ学部
の思想は里山での環境保全と相性が良いので今後も継続してほしい

etc...

